

岡山県感染症週報 2015 年 第 50 週 (12 月 7 日～12 月 13 日)

【お知らせ】 次週、2015 年第 51 週(12/14～12/20)の感染症週報は、12 月 25 日(金)17:00 にホームページへ掲載いたします。

◆2015 年 第 50 週 (12/7～12/13) の感染症発生動向 (届出数)

■全数把握感染症の発生状況

第 48 週	2 類感染症	結核	1 名 (70 代 女)
第 49 週	2 類感染症	結核	2 名 (80 代 男 1 名・女 1 名)
	5 類感染症	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	1 名 (60 代 女)
		侵襲性肺炎球菌感染症	1 名 (60 代 男)
		水痘 (入院例に限る。)	1 名 (小学生 女)
		梅毒	1 名 (50 代 男)
第 50 週	2 類感染症	結核	2 名 (幼児 男 1 名、60 代 男 1 名)
	4 類感染症	デング熱	1 名 (20 代 男)
	5 類感染症	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	1 名 (80 代 男)
		急性脳炎	1 名 (小学生 男)
		梅毒	1 名 (10 代 女)

■定点把握感染症の発生状況

患者報告医療機関数：インフルエンザ定点 84、小児科定点 54、眼科定点 12、STD 定点 17、基幹定点 5

- 感染性胃腸炎は、県全体で 617 名 (定点あたり 8.98 → 11.43 人) の報告があり、前週より増加しました。備北地域では、「発生レベル 3」となっています。
- RS ウイルス感染症は、県全体で 80 名 (定点あたり 1.19 → 1.48 人) の報告があり、前週より増加しました。
- 流行性耳下腺炎は、県全体で 65 名 (定点あたり 0.96 → 1.20 人) の報告があり、前週より増加しました。
- 伝染性紅斑は、県全体で 36 名 (定点あたり 0.33 → 0.67 人) の報告があり、前週より増加しました。
- インフルエンザは、県全体で 46 名 (定点あたり 0.33 → 0.55 人) の報告があり、前週よりわずかに増加しました。

【第 51 週 速報】

- インフルエンザによるとみられる学校等の臨時休業が 2 施設でありました。(12 月 14～15 日)

1. **感染性胃腸炎**は、県全体で 617 名 (定点あたり 8.98 → 11.43 人) の報告があり、前週より増加しました。備北地域では、先週にひきつづき「発生レベル 3」となっています。今週から週報に「感染性胃腸炎週報」の掲載を開始いたします。県内の発生状況など詳しくは、「[感染性胃腸炎週報](#)」及び岡山県感染症情報センターホームページ『[2015/2016 年 感染性胃腸炎情報](#)』をご覧ください。
2. **RS ウイルス感染症**は、県全体で 80 名 (定点あたり 1.19 → 1.48 人) の報告があり、前週より増加しました。地域別では、美作地域 (2.67 人)、倉敷市 (2.36 人)、真庭地域 (2.00 人) の順で定点あたり報告数が多くなっています。この感染症は、乳児が感染すると重症化する恐れがありますが、悪化しても平熱か 38℃以下のことが多いため、お子さんの様子に注意することが必要です。熱が下がっても症状が改善せず、ゼイゼイとのどが鳴るなどの症状があるときは、早めに医療機関を受診してください。ひきつづき今後の県内の発生状況に注意するとともに、乳児がいる家庭では、特に感染予防に努めてください。
3. **流行性耳下腺炎 (おたふくかぜ)**は、県全体で 65 名 (定点あたり 0.96 → 1.20 人) の報告があり、前週より増加しました。地域別では、美作地域 (2.17 人)、岡山市 (2.14 人)、備北地域 (2.00 人) の順で定点あたり報告数が多くなっています。この感染症は、予後は一般に良好ですが、まれに無菌性髄膜炎、感音性難聴、精巣炎などの合併症を引き起こすことがあり、年齢が高くなるにつれて症状が重くなる傾向があります。有効な薬剤はなく、治療は対症療法が中心となります。効果的に予防する唯一の方法は、ワクチンを接種することです。
4. **伝染性紅斑 (リンゴ病)**は、県全体で 36 名 (定点あたり 0.33 → 0.67 人) の報告があり、前週より倍増しました。過去 10 年間で最も多い状態です。地域別では、岡山市 (1.14 人)、備北地域 (1.00 人)、備前地域 (0.70 人) の順で、定点あたり報告数が多くなっています。この感染症は、妊娠中、特に妊娠初期に感染した場合、胎児異常 (胎児水腫) や流産の危険があります。妊婦の方は、周囲で患者の発生がみられる時、風邪の症状がある人に出来るだけ近づかないよう注意するとともに、家庭内で感染した人がいる場合は、必ず産婦人科で相談しましょう。
5. **インフルエンザ**は、県全体で 46 名 (定点あたり 0.33 → 0.55 人) の報告があり、前週よりわずかに増加しました。県内の発生状況など詳しくは、「[インフルエンザ週報](#)」及び岡山県感染症情報センターホームページ『[2015/2016 年シーズン インフルエンザ情報](#)』をご覧ください。

流行の推移と発生状況

疾病名	推移	発生状況	疾病名	推移	発生状況
インフルエンザ		★	RSウイルス感染症		★★
咽頭結膜熱		★	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		★★★
感染性胃腸炎		★	水痘		★
手足口病		★	伝染性紅斑		★★★★★
突発性発疹		★★	百日咳		★
ヘルパンギーナ			流行性耳下腺炎		★★★
急性出血性結膜炎			流行性角結膜炎		★★
細菌性髄膜炎			無菌性髄膜炎		★
マイコプラズマ肺炎		★	クラミジア肺炎		
感染性胃腸炎(ロタウイルス)		* 感染性胃腸炎(ロタウイルス)については、2013 年第 42 週から報告対象となったため、前週からの推移のみ表示しています。			

【記号の説明】 前週からの推移：
 : 2 倍以上の減少
 : 1.1～2 倍未満の減少
 : 1.1 未満の増減
 : 1.1～2 倍未満の増加
 : 2 倍以上の増加
発生状況：今週の流行状況を過去5年間と比較し、5段階で表示しています。
空白:発生なし ★: 僅か ★★:少し ★★★:やや多い ★★★★★:多い ★★★★★★:非常に多い

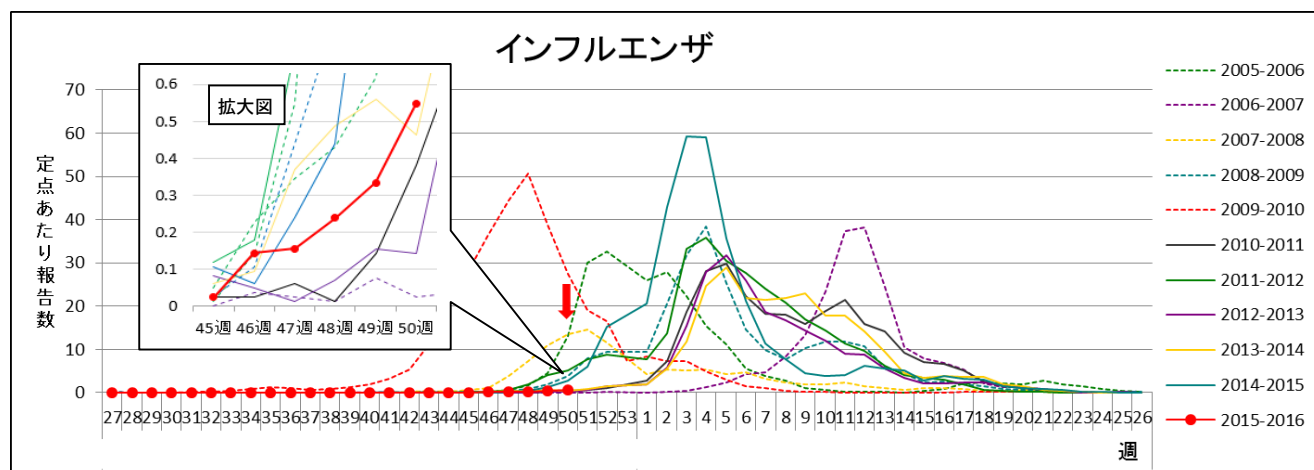
インフルエンザ週報 2015 年 第 50 週 (12 月 7 日 ~ 12 月 13 日)

➤ 岡山県の流行状況

- インフルエンザは、県全体で 46 名の報告がありました（84 定点医療機関報告）。
- インフルエンザによるとみられる学校等の臨時休業はありませんでした。
- インフルエンザによる入院患者 1 名の報告がありました。

【第 51 週 速報】

- インフルエンザによるとみられる学校等の臨時休業が 2 施設でありました。（12 月 14～15 日）



※ インフルエンザは、通常、秋から翌年の春にかけて流行するため、第 27 週 ~ 翌年第 26 週で、グラフを作成しています。

インフルエンザは、岡山市 17 名、備中地域 12 名、倉敷市 10 名、備北地域 4 名、備前地域 3 名の報告があり、県全体では 46 名（定点あたり 0.33 → 0.55 人）でした（84 定点医療機関報告）。地域別では、備中地域（1.00 人）で、定点あたり報告数が前週（0.75 人）より増加し、インフルエンザの流行開始の目安となる「定点あたり 1.0 人」に達しました。また、岡山市、倉敷市、備北地域でも、患者が増加しています。

12 月に入り、例年インフルエンザの流行が始まる時期となっています。外出後は手洗いを励行し、感染予防を心がけましょう。また、予防接種を予定されている方は、早めに済ませましょう。

第 49 週全国集計によると、全国の定点あたり報告数は 0.21 人であり、前週（0.17 人）よりわずかに増加しました。過去 5 年間の同時期の報告数と比較して、最も少ない状態です。都道府県別では、沖縄県（0.95 人）、北海道（0.73 人）、秋田県（0.61 人）の順で、定点あたり報告数が多くなっています。

[平成 27 年第 49 週 インフルエンザの発生状況について\(厚生労働省\)](#)
[インフルエンザ Q&A \(厚生労働省\)](#)

◆◆ インフルエンザの予防接種は、お早めに！ ◆◆

インフルエンザのワクチンによる効果が出現するまで、2 週間程度かかります。
本格的な流行がはじまる前に予防接種を済ませることをお勧めします。

定期予防接種の対象者は積極的に予防接種を受けましょう。定期予防接種の対象者以外の方は、任意での予防接種を受けることをご検討ください。

- ・ 予防接種は発症の可能性を減らし、もし発症しても重い症状になるのを防ぎます。
- ・ 年により、流行するウイルスの型が変わるため、毎年接種する必要があります。

定期予防接種対象者

- * 65 歳以上の方
- * 60～64 歳で心臓、腎臓または呼吸器の機能に障害があり、身の回りの生活が極度に制限される方、ヒト免疫不全ウイルスにより免疫機能に障害があり、日常生活が非常に困難な方

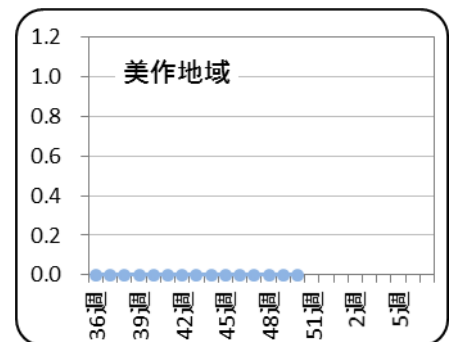
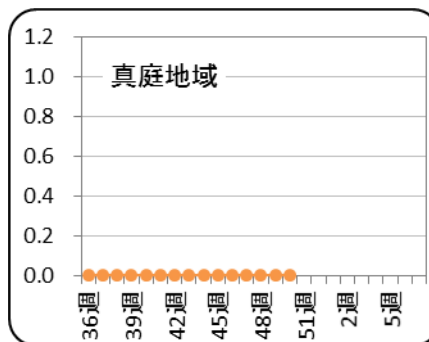
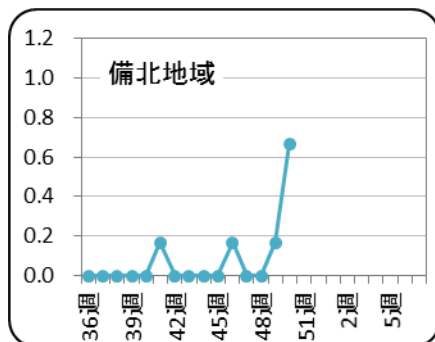
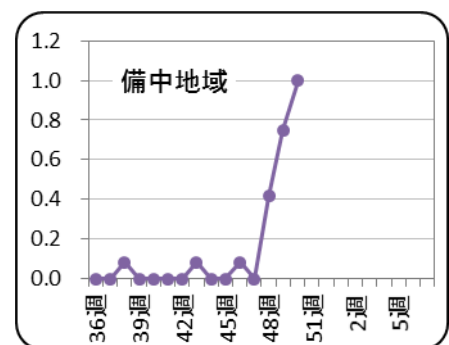
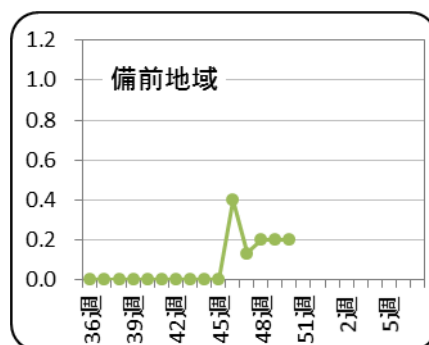
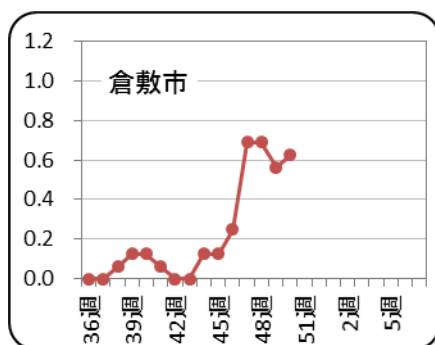
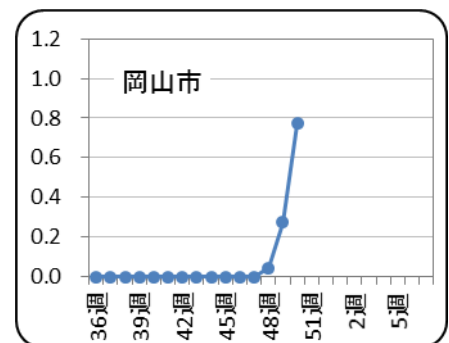
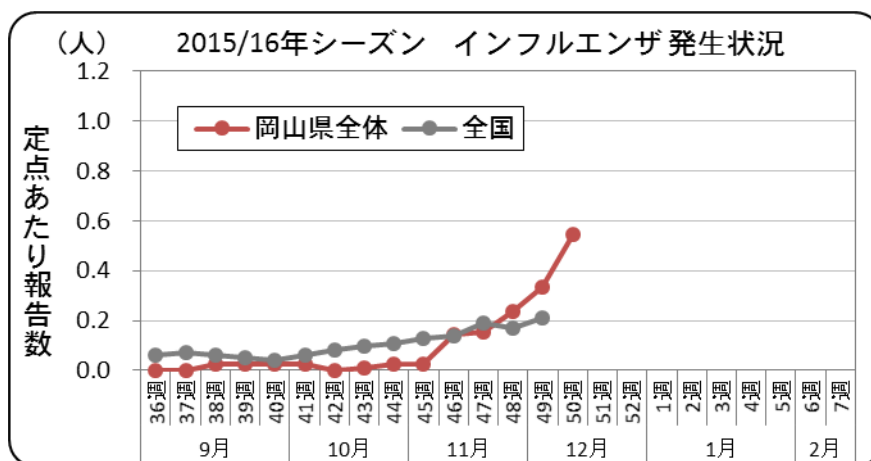
◎ワクチンの在庫および予防接種の予約等については、各医療機関にお問い合わせください。

1.地域別発生状況

前週からの推移（単位：人）

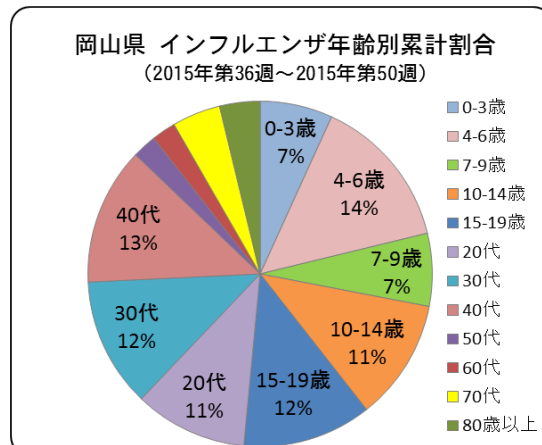
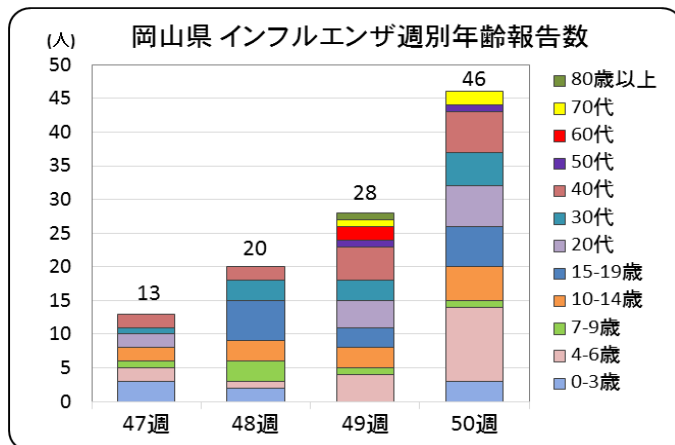
地域名	発生状況		推移	地域名	発生状況		推移
岡山県全体	患者数	46	↗	備 中	患者数	12	↗
	定点あたり	0.55			定点あたり	1.00	
岡山市	患者数	17	↗	備 北	患者数	4	↗
	定点あたり	0.77			定点あたり	0.67	
倉敷市	患者数	10	↗	真 庭	患者数	—	→
	定点あたり	0.63			定点あたり	—	
備 前	患者数	3	→	美 作	患者数	—	→
	定点あたり	0.20			定点あたり	—	

【記号の説明】 前週からの推移
 ↓ : 2倍以上の減少 ↘ : 1.1～2倍未満の減少 → : 1.1未満の増減
 ↗ : 1.1～2倍未満の増加 ↑ : 2倍以上の増加



2. 年齢別発生状況

今シーズン（2015年8月31日～）の年齢別累計割合は、4-6歳 14%、40歳代 13%、15-19歳・30歳代 各 12% の順で高くなっています。



3. インフルエンザ様疾患による学校等の臨時休業施設数

インフルエンザによるとみられる学校等の臨時休業はありませんでした。

1) 有症者数・欠席者数および臨時休業措置の内訳

地域名*	有症者数		うち欠席者数		施設数合計		休園・休校数		学年閉鎖施設数		学級閉鎖施設数		初発年月日
	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	
岡山県全体	6	42	6	32	1	4	—	—	—	—	1	4	H27.11.24
岡山市	0	9	0	6	0	1	—	—	—	—	0	1	H27.11.24
倉敷市	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
備前地域	0	9	0	7	0	1	—	—	—	—	0	1	H27.11.24
備中地域	6	24	6	19	1	2	—	—	—	—	1	2	H27.11.24
備北地域	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
真庭地域	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
美作地域	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

* 地域名は、保健所管轄地域を表しています。

2) 臨時休業施設数の内訳

第50週：0施設 累計：4施設

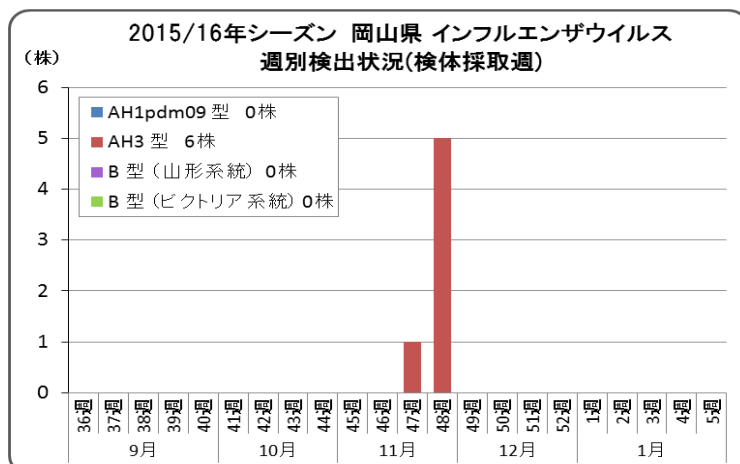
	保育所		幼稚園		小学校		中学校		高等学校		その他	
	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計
施設数	—	—	—	—	0	1	—	—	0	3	—	—

4. インフルエンザウイルス検出状況

第50週、環境保健センターで判明したインフルエンザウイルスは、AH3型が2株でした。今シーズンこれまでに環境保健センターで検出されたインフルエンザウイルスは、AH3型が6株（100%）となっています。

今シーズン、全国で検出されたインフルエンザウイルスは、AH3型 74株、AH1pdm09型 34株、B型 34株となっています。（2015年12月11日現在）

[インフルエンザウイルス分離・検出速報（国立感染症研究所）](#)

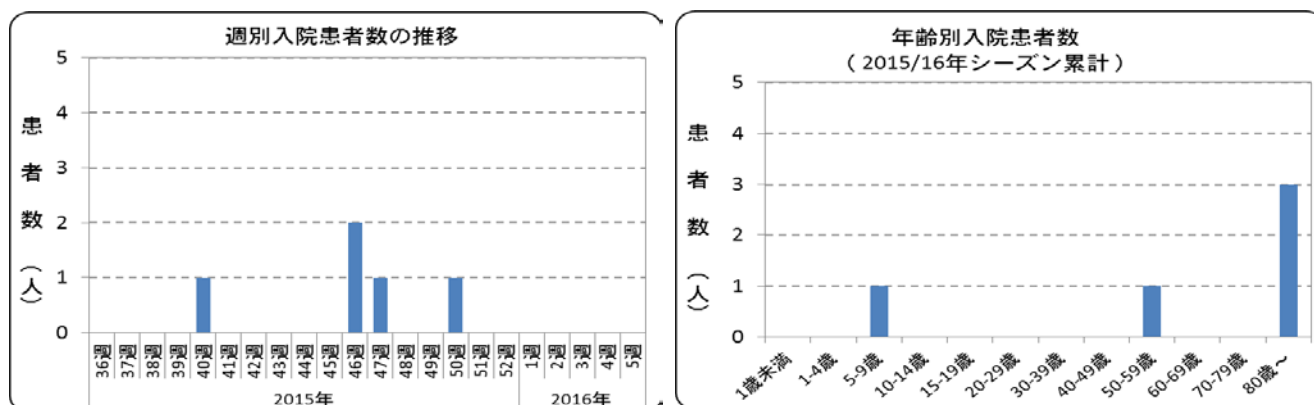


ウイルス名	検体採取週	検体採取日	地域	年齢	性別
インフルエンザウイルスAH3型	2015年第48週(11/23～11/29)	2015/11/28	岡山市	10代	女
インフルエンザウイルスAH3型	2015年第48週(11/23～11/29)	2015/11/28	岡山市	10代	女

5. インフルエンザによる入院患者報告数（県内基幹定点 5 医療機関による報告）

インフルエンザによる入院患者は、1 名（5～9 歳）の報告がありました。

幼児や高齢者、慢性疾患・代謝疾患をもつ人、免疫機能が低下している人などでは重症化することがありますので注意が必要です。幼児ではまれに脳炎を起こすことがあります。水分をとった後すぐ吐いてしまう、元気がない、意識がはっきりせずとうとうとしている、けいれんを起こす、このような症状がみられるときは、すぐに医療機関に相談しましょう。



【第 50 週 入院患者報告数】

年齢	1歳未満	1～4歳	5～9歳	10～14歳	15～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～79歳	80歳以上	計*
入院患者数			1										1
ICU 入室			1										1
人工呼吸器の利用			1										1
頭部 CT 検査(予定含)													
頭部 MRI 検査(予定含)													
脳波検査 (予定含)			1										1
いずれにも該当せず													

* 重複あり

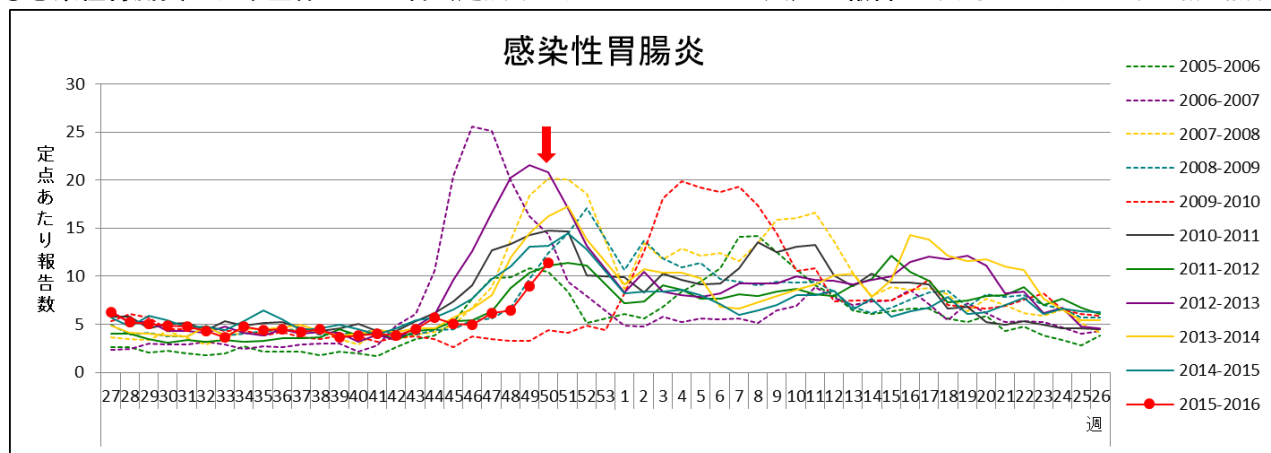
【2015 年 8 月 31 日以降に入院した患者の累計数】

年齢	1歳未満	1～4歳	5～9歳	10～14歳	15～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～79歳	80歳以上	計*
入院患者数			1						1			3	5
ICU 入室			1						1				2
人工呼吸器の利用			1										1
頭部 CT 検査(予定含)													
頭部 MRI 検査(予定含)													
脳波検査 (予定含)			1										1
いずれにも該当せず												3	3

* 重複あり

感染性胃腸炎週報 2015 年 第 50 週 (12 月 7 日 ~ 12 月 13 日)

○感染性胃腸炎は、県全体で 617 名（定点あたり 8.98 → 11.43 人）の報告がありました（54 定点医療機関報告）。

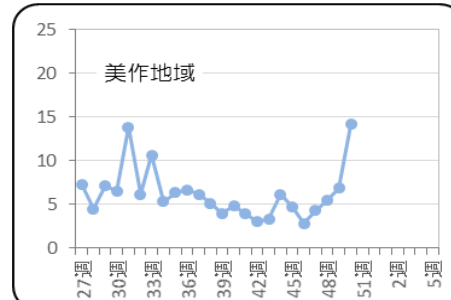
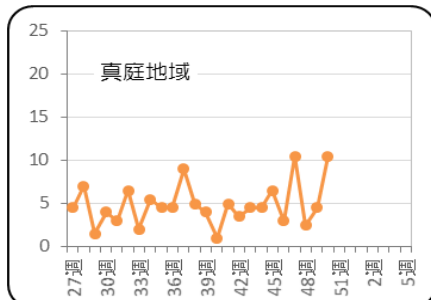
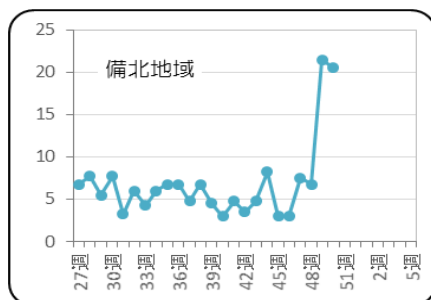
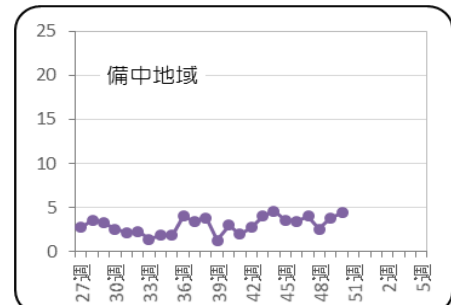
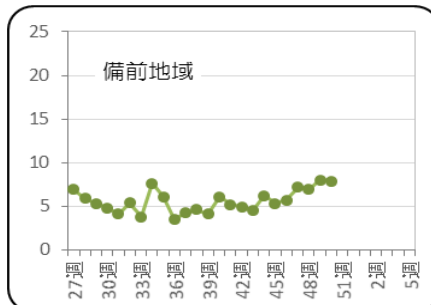
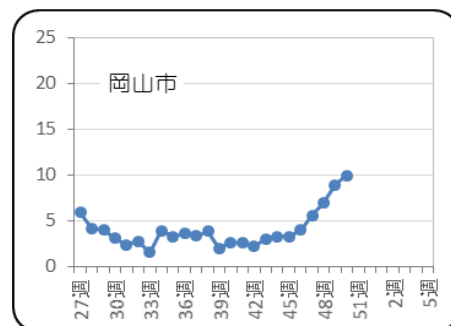
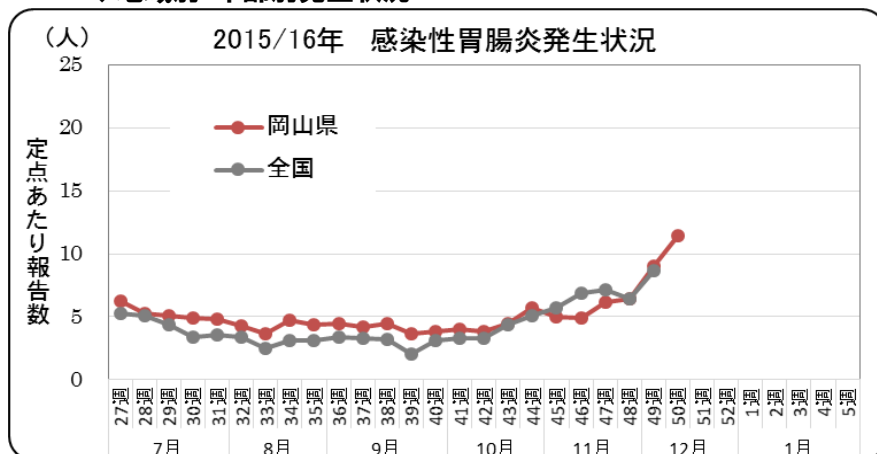


※感染性胃腸炎は秋から翌年の春にかけて流行するため、27 週～翌年 26 週でグラフを作成しています。

感染性胃腸炎は、県全体で 617 名（定点あたり 8.98 → 11.43 人）の報告があり、4 週連続で増加しています。

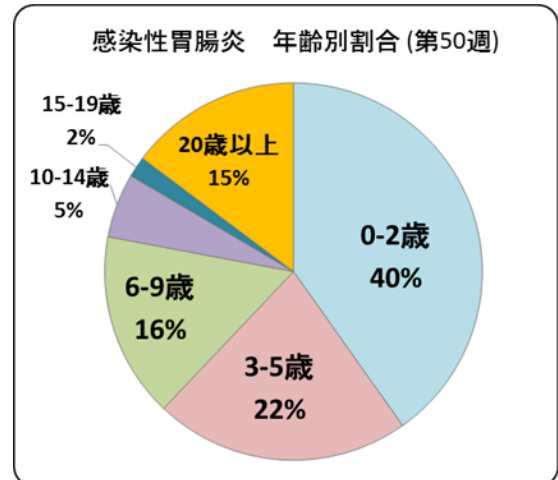
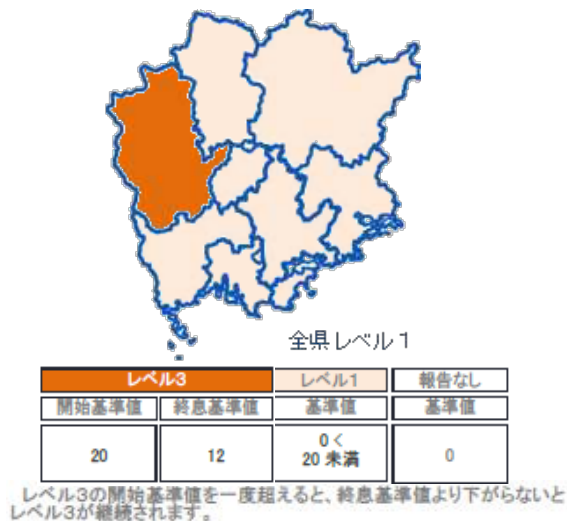
冬の感染性胃腸炎の原因は、ノロウイルスやロタウイルスなどのウイルスによるものが多く、幅広い年齢層での発生がみられます。全国では、ノロウイルスによる集団食中毒事例や介護施設などでの集団感染事例も報告されています。また、今シーズンのノロウイルスによる感染性胃腸炎では、これまで大規模な感染報告例のなかった遺伝子型 G II.17 変異株が主流になると予測されており、大きな流行となることが危惧されています。排便後や調理・食事の前には石けんと流水で十分に手を洗う、下痢便・おう吐物は適切に処理をするなど、感染予防と拡大防止に努めてください。

◆地域別・年齢別発生状況



地域別では、備北地域（20.50人）、倉敷市（16.36人）、美作地域（14.17人）の順で定点あたり報告数が多くなっており、備北地域では、前週にひきつづき「発生レベル3」となっています。年齢別割合では、0-2歳が40%と最も高く、次いで3-5歳 22%、6-9歳 16%の順となっています。

感染性胃腸炎感染症マップ 2015年 50週



【ウイルス性胃腸炎の感染経路】

ウイルスが人の手などを介して、口に入ったときに感染する可能性があります。

1. 感染した人の便や吐物に触れた手指を介してウイルスが口に入った場合
2. 便やおう吐物が乾燥して、細かな塵とともに舞い上ったウイルスを吸い込んだ場合
3. 感染した人が十分に手を洗わずに調理した食品を食べた場合
4. 汚染された二枚貝を、生あるいは十分に加熱調理しないで食べた場合

特にノロウイルスは、100個以下の少ない量でも感染が成立する、非常に感染力が強いウイルスです。

【治療】

ウイルスを原因とする感染性胃腸炎への特別な治療薬はなく、対症療法が中心です。通常重症化することはありませんが、小さなお子さんや高齢者の方は、嘔吐や下痢による脱水症状を起こすこともありますので、体調の変化に注意し、早めに医療機関を受診してください。

◆◆ ノロウイルスに感染しないためには ◆◆

1. 最も大切なことは手を洗うことです。

排便後や、調理・食事の前には、石けんと流水で十分に手を洗いましょう。

2. 処理をする人自身が感染しないように気をつけましょう。

おう吐物や下痢便にはウイルスが大量に含まれています。処理するときは、使い捨ての上着や、マスク、手袋を着用し、下痢便、おう吐物をペーパータオル等で静かに拭き取った後は、**次亜塩素酸ナトリウム（家庭用塩素系漂白剤でも代用可）**で浸すように床を拭き取り、その後水拭きをします。アルコールは、ノロウイルスに対して消毒効果が低いとされています。また、処理をした後はしっかりと流水で手を洗いましょう。

3. 嘔吐物や下痢便で汚れた衣類は、**85℃で1分以上の熱水洗濯か次亜塩素酸ナトリウム（家庭用塩素系漂白剤でも代用可）**の消毒が有効です。

おう吐物や下痢便で汚れた衣類は、付着した汚物を除去し、洗剤を入れた水の中で静かにもみ洗いした後、熱水洗濯か次亜塩素酸ナトリウムで消毒をしましょう。

※塩素系漂白剤の使用に当たっては「使用上の注意」を確認しましょう。

4. 食品は、中心部まで十分に加熱しましょう。（中心部を85～90℃で90秒間以上）

二枚貝の生食を控えましょう。中心部までしっかり加熱すれば安心です。

保健所別報告患者数（定点把握）2015年 50週 （2015/12/07～2015/12/13）

2015年12月17日

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当
インフルエンザ	46	0.55	17	0.77	10	0.63	3	0.20	12	1.00	4	0.67	—	—	—	—
RSウイルス感染症	80	1.48	15	1.07	26	2.36	6	0.60	8	1.14	5	1.25	4	2.00	16	2.67
咽頭結膜熱	15	0.28	7	0.50	1	0.09	1	0.10	1	0.14	1	0.25	1	0.50	3	0.50
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	78	1.44	11	0.79	37	3.36	11	1.10	8	1.14	1	0.25	9	4.50	1	0.17
感染性胃腸炎	617	11.43	139	9.93	180	16.36	79	7.90	31	4.43	82	20.50	21	10.50	85	14.17
水痘	25	0.46	7	0.50	10	0.91	1	0.10	7	1.00	—	—	—	—	—	—
手足口病	5	0.09	4	0.29	—	—	1	0.10	—	—	—	—	—	—	—	—
伝染性紅斑	36	0.67	16	1.14	2	0.18	7	0.70	4	0.57	4	1.00	—	—	3	0.50
突発性発疹	23	0.43	10	0.71	3	0.27	3	0.30	1	0.14	3	0.75	—	—	3	0.50
百日咳	1	0.02	—	—	—	—	1	0.10	—	—	—	—	—	—	—	—
ヘルパンギーナ	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
流行性耳下腺炎	65	1.20	30	2.14	11	1.00	3	0.30	—	—	8	2.00	—	—	13	2.17
急性出血性結膜炎	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
流行性角結膜炎	7	0.58	7	1.40	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
細菌性髄膜炎	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
無菌性髄膜炎	1	0.20	1	1.00	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
マイコプラズマ肺炎	4	0.80	—	—	—	—	—	—	—	—	4	4.00	—	—	—	—
クラミジア肺炎	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
感染性胃腸炎（ロタウイルス）	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

（－： 0 or 0.00） （空白： 定点なし）

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当
インフルエンザ	46	0.55	17	0.77	10	0.63	3	0.20	12	1.00	4	0.67	—	—	—	—
咽頭結膜熱	15	0.28	7	0.50	1	0.09	1	0.10	1	0.14	1	0.25	1	0.50	3	0.50
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	78	1.44	11	0.79	37	3.36	11	1.10	8	1.14	1	0.25	9	4.50	1	0.17
感染性胃腸炎	617	11.43	139	9.93	180	16.36	79	7.90	31	4.43	82	20.50	21	10.50	85	14.17
水痘	25	0.46	7	0.50	10	0.91	1	0.10	7	1.00	—	—	—	—	—	—
手足口病	5	0.09	4	0.29	—	—	1	0.10	—	—	—	—	—	—	—	—
伝染性紅斑	36	0.67	16	1.14	2	0.18	7	0.70	4	0.57	4	1.00	—	—	3	0.50
百日咳	1	0.02	—	—	—	—	1	0.10	—	—	—	—	—	—	—	—
ヘルパンギーナ	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
流行性耳下腺炎	65	1.20	30	2.14	11	1.00	3	0.30	—	—	8	2.00	—	—	13	2.17
急性出血性結膜炎	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
流行性角結膜炎	7	0.58	7	1.40	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

濃黄セルに赤字は岡山県地区別感染症マップにおいて、レベル3

薄黄セルに黒数字は岡山県地区別感染症マップにおいて、レベル2

を示しています。

感染症発生動向調査 週情報 報告患者数 年齢別 (2015年 第50週 2015/12/07～2015/12/13)

疾病名	合計	-6ヶ月	-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	80～
インフルエンザ	46	-	-	1	1	1	4	2	5	1	-	-	5	6	6	5	6	1	-	2	-

疾病名	合計	-6ヶ月	-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20～
RSウイルス感染症	80	17	21	20	14	3	3	2	-	-	-	-	-	-	-
咽頭結膜熱	15	-	2	6	1	1	3	1	1	-	-	-	-	-	-
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	78	1	1	3	6	8	9	11	16	6	2	4	10	-	1
感染性胃腸炎	617	9	38	129	72	56	41	38	39	21	20	18	34	11	91
水痘	25	-	-	2	3	1	9	2	5	-	3	-	-	-	-
手足口病	5	-	-	2	2	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
伝染性紅斑	36	-	1	4	1	3	4	2	6	5	2	1	3	4	-
突発性発疹	23	-	12	7	3	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
百日咳	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性耳下腺炎	65	-	1	4	9	4	8	7	8	7	1	7	4	1	4

疾病名	合計	-6ヶ月	-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70～
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	7	-	-	-	1	1	-	1	-	-	-	-	-	-	1	2	-	1	-	-

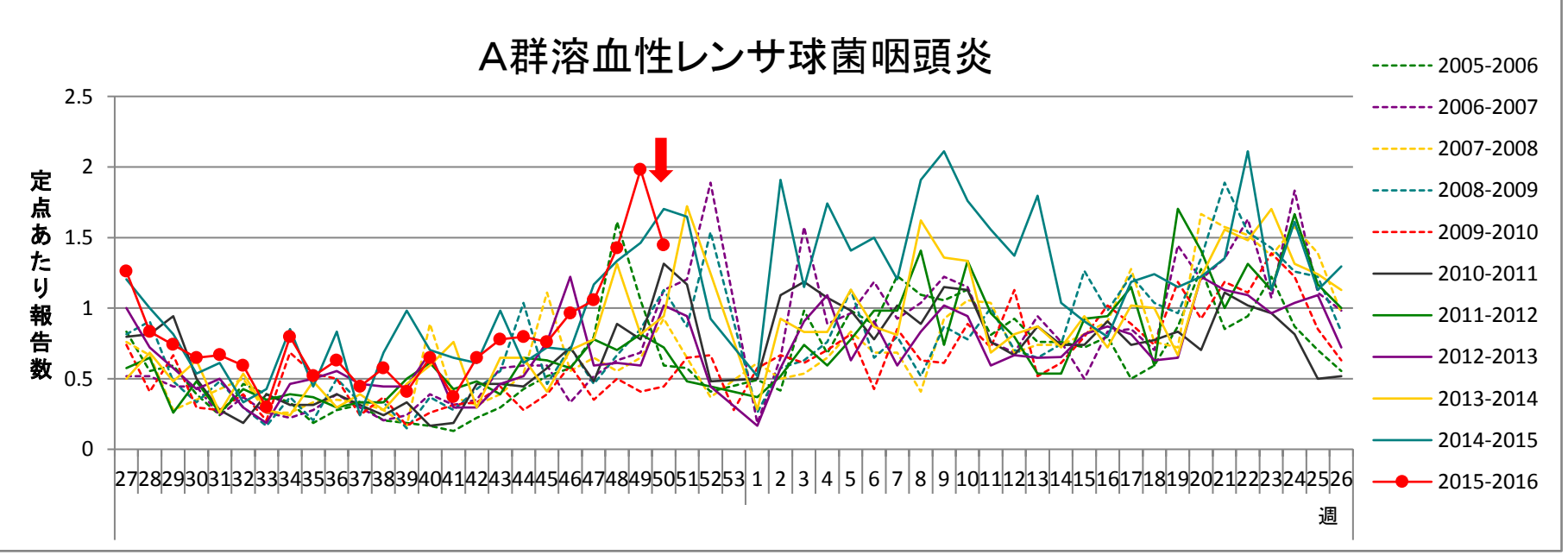
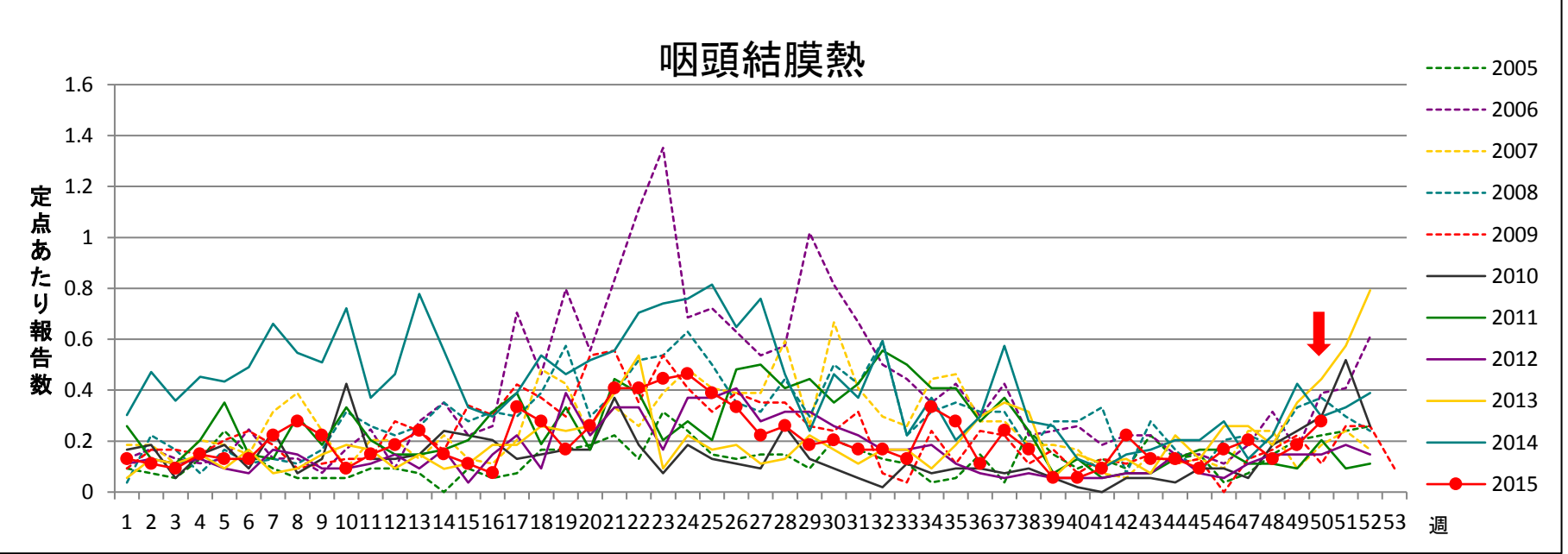
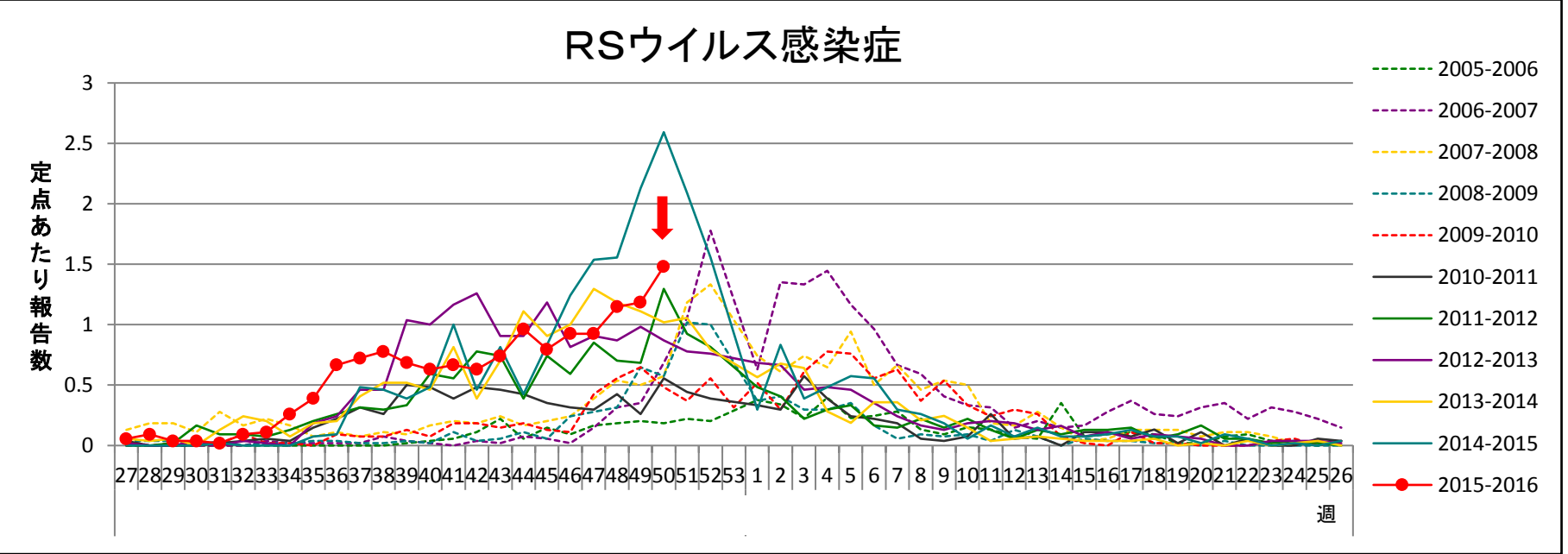
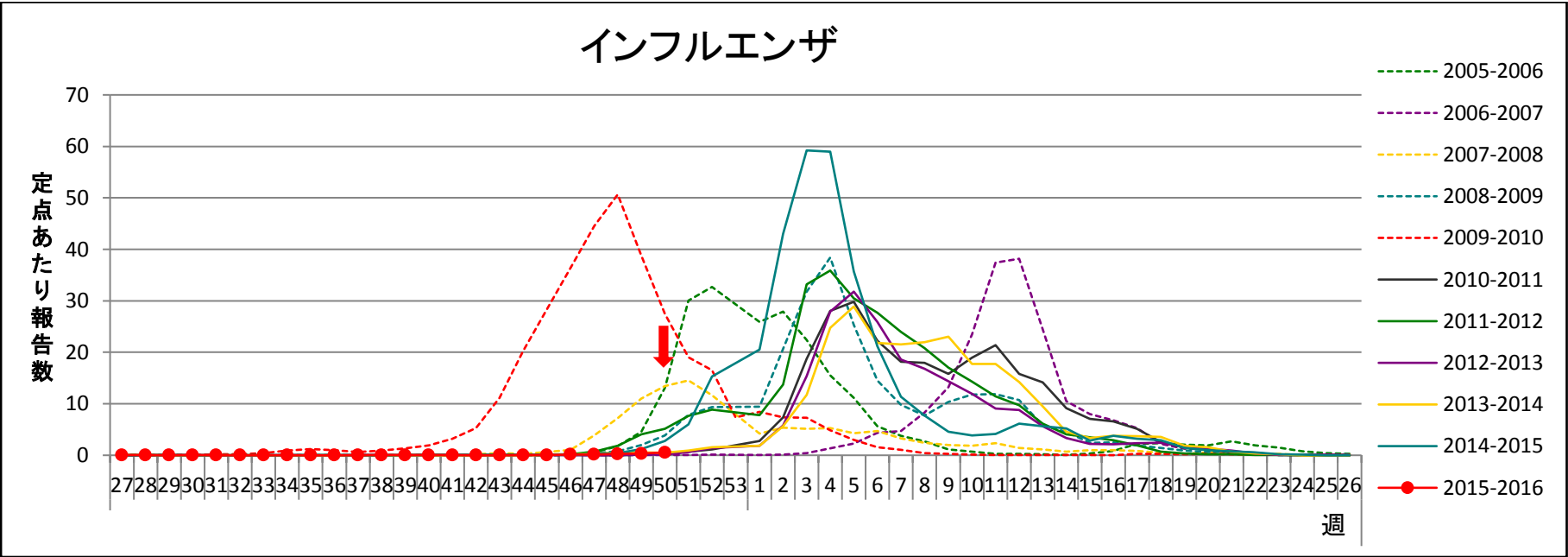
疾病名	合計	0歳	1-4	5-9	10-14	15-19	20-24	25-29	30-34	35-39	40-44	45-49	50-54	55-59	60-64	65-69	70～
細菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
マイコプラズマ肺炎	4	-	1	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

(- : 0)

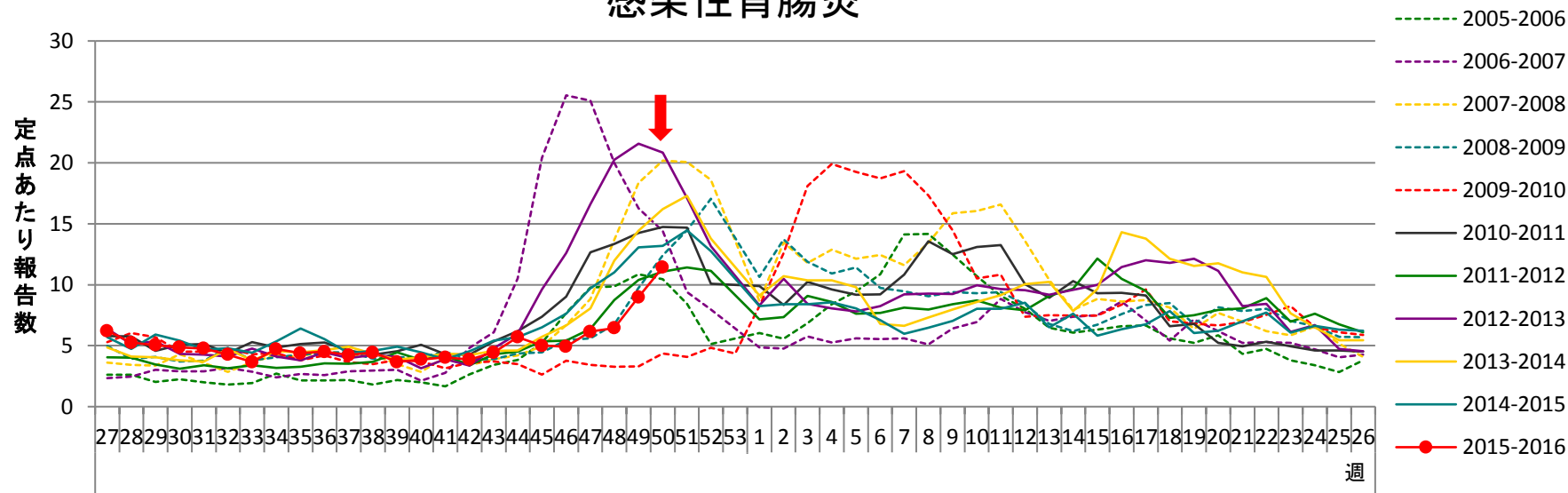
全数把握 感染症患者発生状況

2015 年 50 週

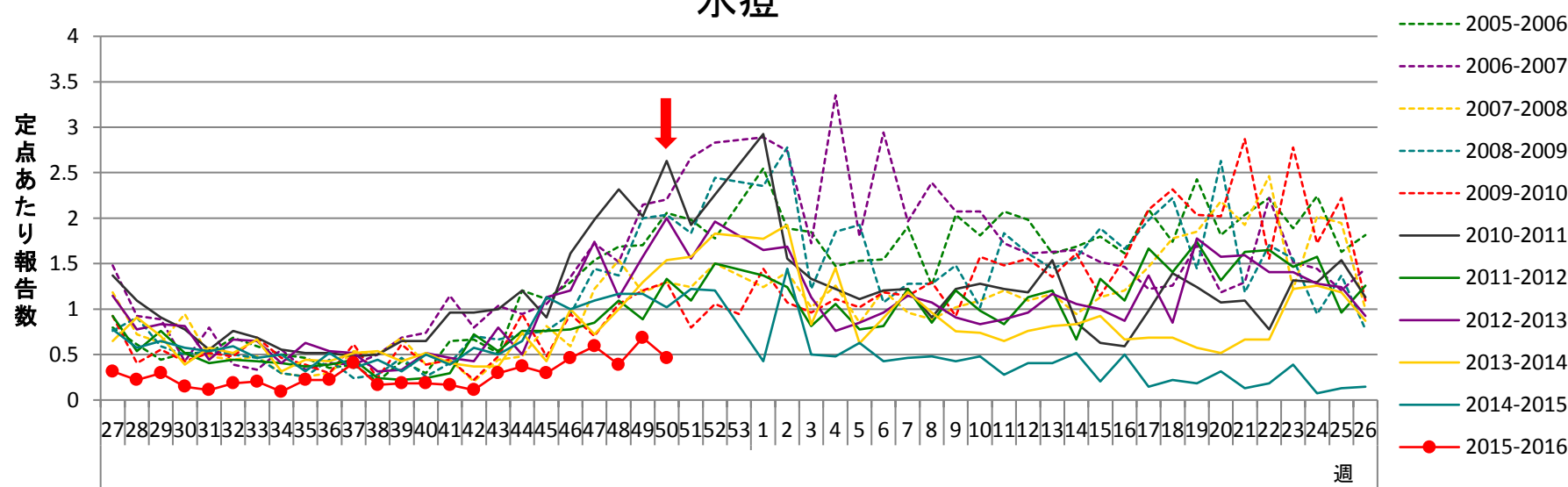
分類	疾病名	2015		2014	疾病名	2015		2014	疾病名	2015		2014
		今週	累計	昨年		今週	累計	昨年		今週	累計	昨年
一類	エボラ出血熱	－	－	－	クリミア・コンゴ出血熱	－	－	－	痘そう	－	－	－
	南米出血熱	－	－	－	ペスト	－	－	－	マールブルグ病	－	－	－
	ラッサ熱	－	－	－		－	－	－		－	－	－
二類	急性灰白髄炎	－	－	－	結核	2	356	384	ジフテリア	－	－	－
	重症急性呼吸器症候群	－	－	－	中東呼吸器症候群	－	－	－	鳥インフルエンザ(H5N1)	－	－	－
	鳥インフルエンザ(H7N9)	－	－	－		－	－	－		－	－	－
三類	コレラ	－	－	－	細菌性赤痢	－	2	－	腸管出血性大腸菌感染症	－	63	71
	腸チフス	－	－	－	パラチフス	－	－	－		－	－	－
四類	E型肝炎	－	3	2	ウエストナイル熱	－	－	－	A型肝炎	－	7	8
	エキノкокクス症	－	－	－	黄熱	－	－	－	オウム病	－	1	－
	オムスク出血熱	－	－	－	回帰熱	－	－	－	キャサナル森林病	－	－	－
	Q熱	－	－	－	狂犬病	－	－	－	コクシジオイデス症	－	－	－
	サル痘	－	－	－	重症熱性血小板減少症候群	－	－	2	腎症候性出血熱	－	－	－
	西部ウマ脳炎	－	－	－	ダニ媒介脳炎	－	－	－	炭疽	－	－	－
	チクングニア熱	－	－	－	つつが虫病	－	－	2	デング熱	1	1	1
	東部ウマ脳炎	－	－	－	鳥インフルエンザ	－	－	－	ニパウイルス感染症	－	－	－
	日本脳炎	－	－	－	日本紅斑熱	－	2	4	ハンタウイルス肺症候群	－	－	－
	Bウイルス病	－	－	－	鼻疽	－	－	－	ブルセラ症	－	－	－
	ベネズエラウマ脳炎	－	－	－	ヘンドラウイルス感染症	－	－	－	発しんチフス	－	－	－
	ボツリヌス症	－	－	－	マラリア	－	2	－	野兔病	－	－	－
	ライム病	－	－	－	リッサウイルス感染症	－	－	－	リフトバレー熱	－	－	－
	類鼻疽	－	－	－	レジオネラ症	－	25	32	レプトスピラ症	－	－	－
	ロッキー山紅斑熱	－	－	－		－	－	－		－	－	－
五類	アメーバ赤痢	－	17	12	ウイルス性肝炎*3	－	7	7	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染	1	32	12
	急性脳炎*4	1	13	9	クリプトスポリジウム症	－	1	－	クロイツフェルト・ヤコブ病	－	1	1
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	－	2	3	後天性免疫不全症候群	－	20	19	ジアルジア症	－	4	1
	侵襲性インフルエンザ菌感染症	－	1	2	侵襲性髄膜炎菌感染症	－	－	－	侵襲性肺炎球菌感染症	－	30	27
	水痘(入院例に限る。)	－	6	6	先天性風しん症候群	－	－	－	梅毒	1	22	21
	播種性クリプトкокクス症	－	1	1	破傷風	－	－	1	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染	－	－	－
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	－	－	2	風しん	－	－	2	麻しん	－	－	6
	薬剤耐性アシネトバクター感染症	－	－	－		－	－	－		－	－	－



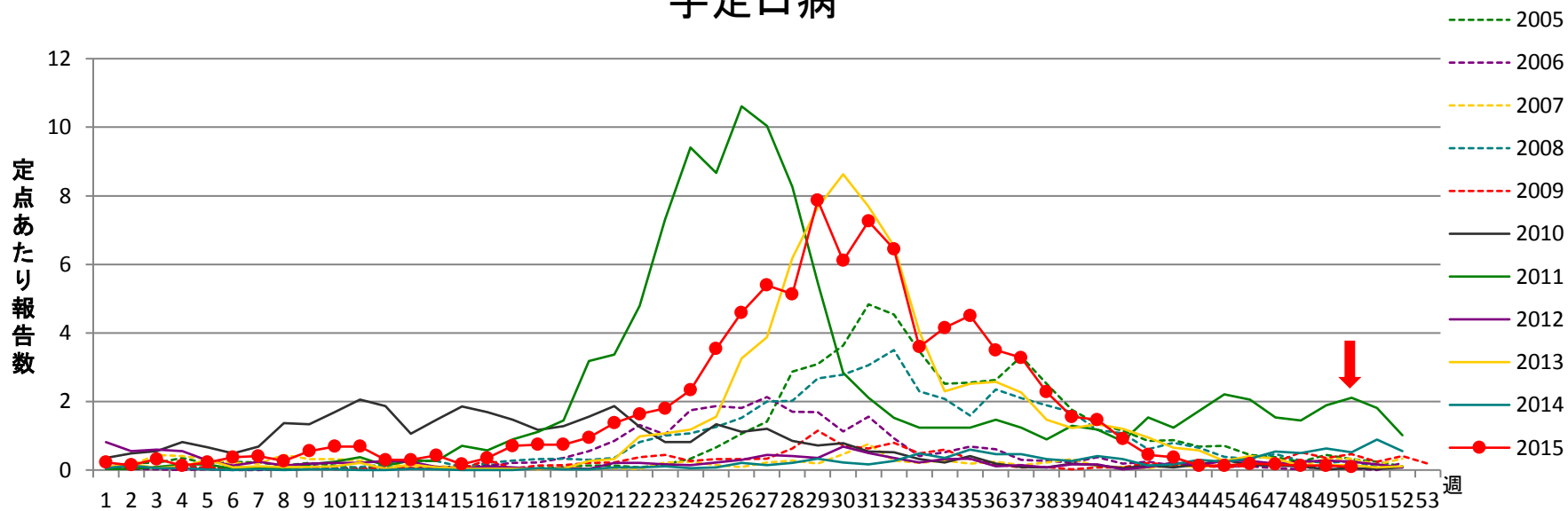
感染性胃腸炎



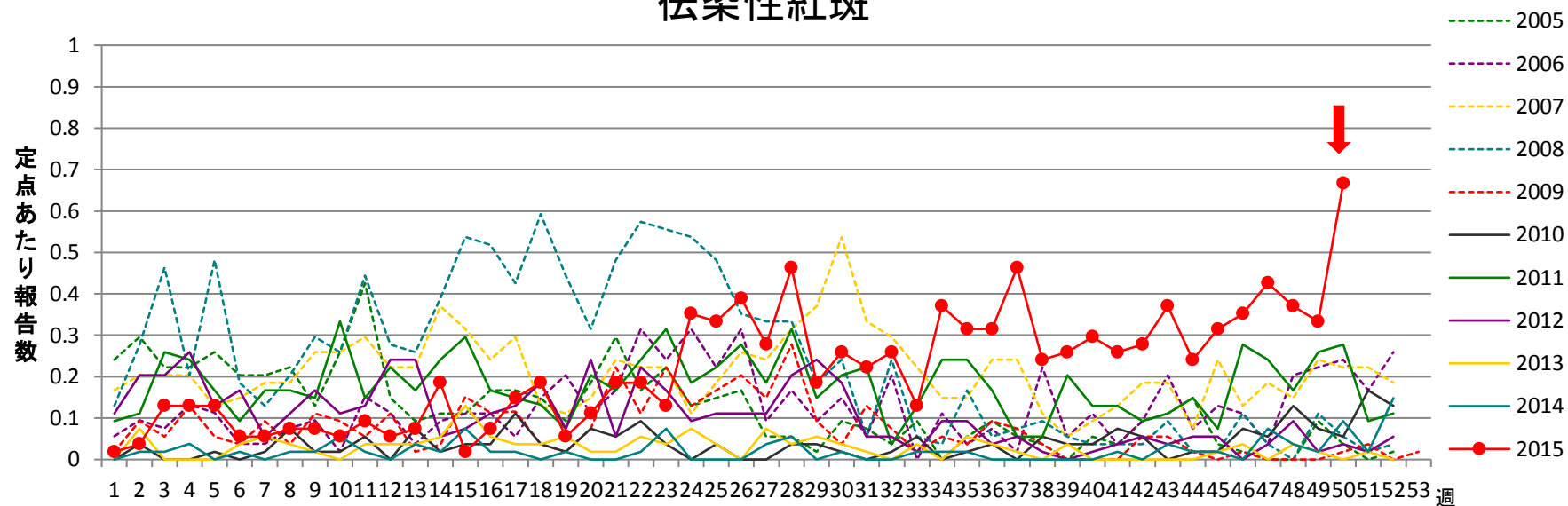
水痘



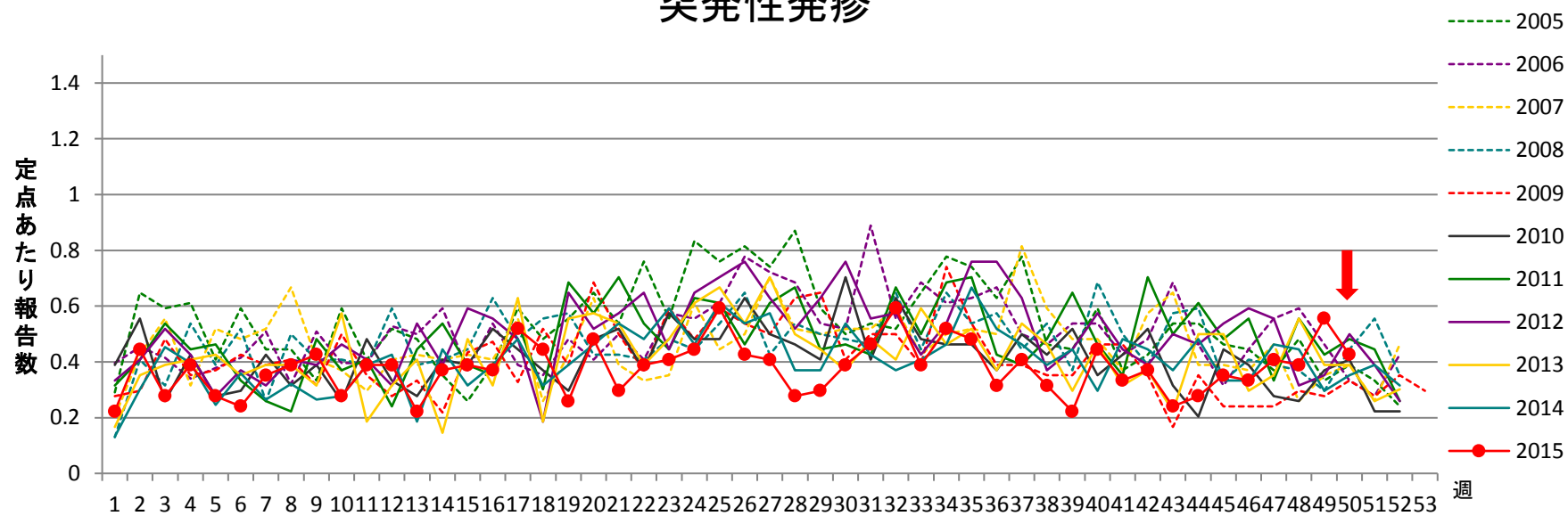
手足口病



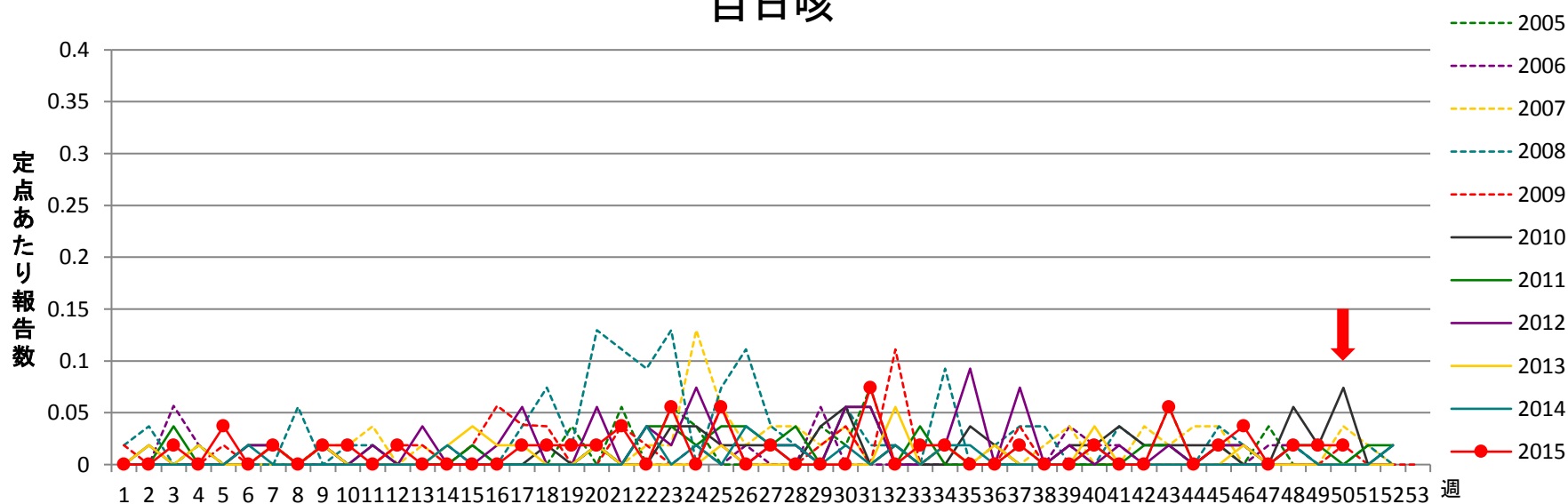
伝染性紅斑



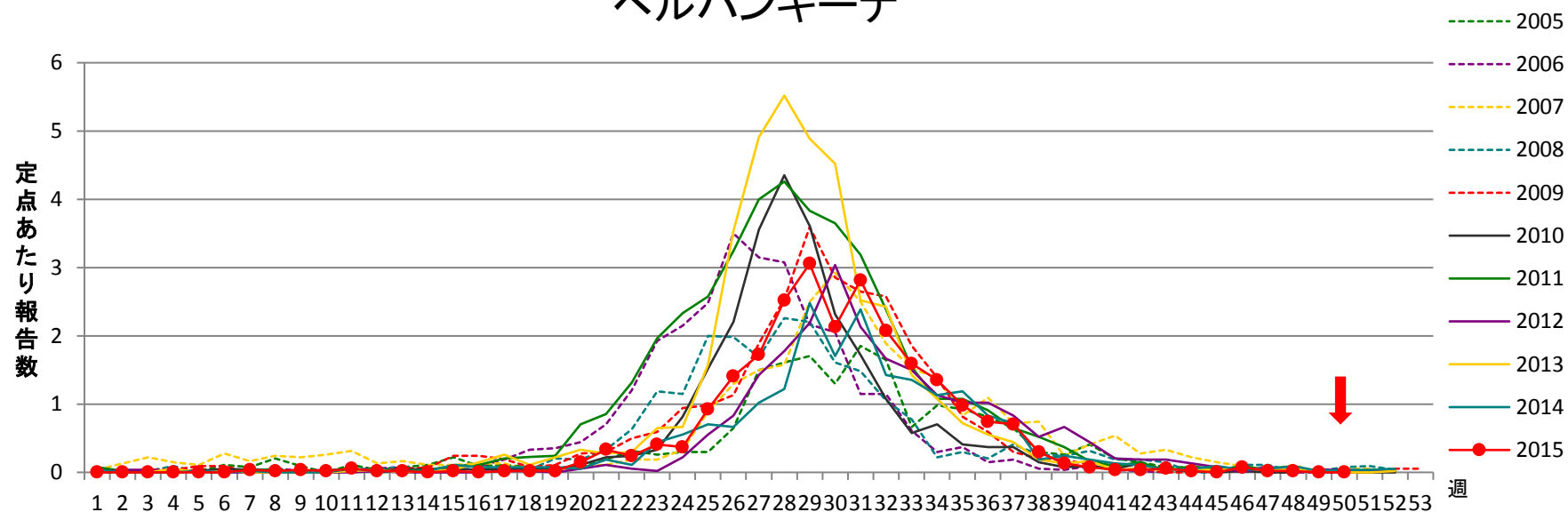
突発性発疹



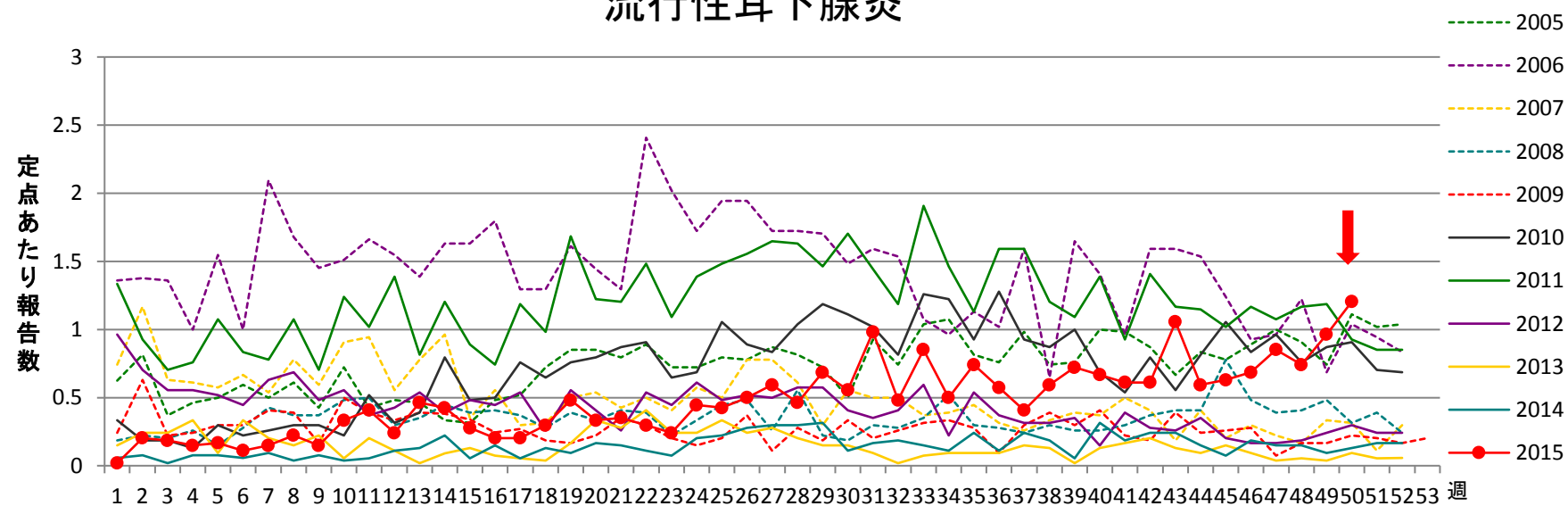
百日咳



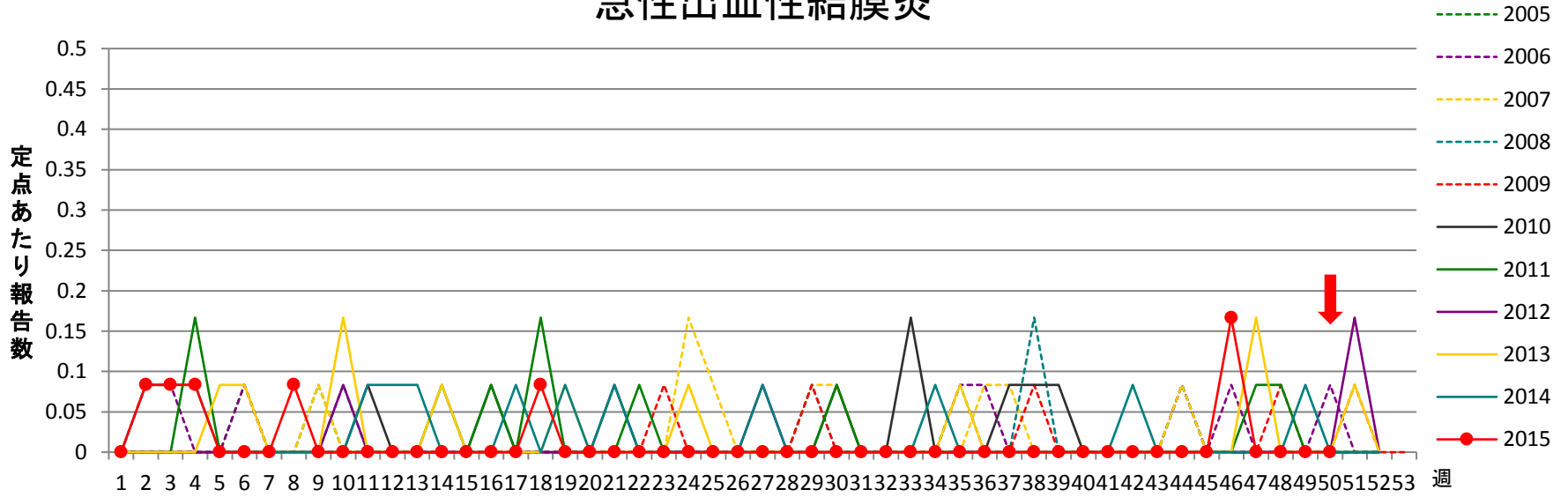
ヘルパンギーナ



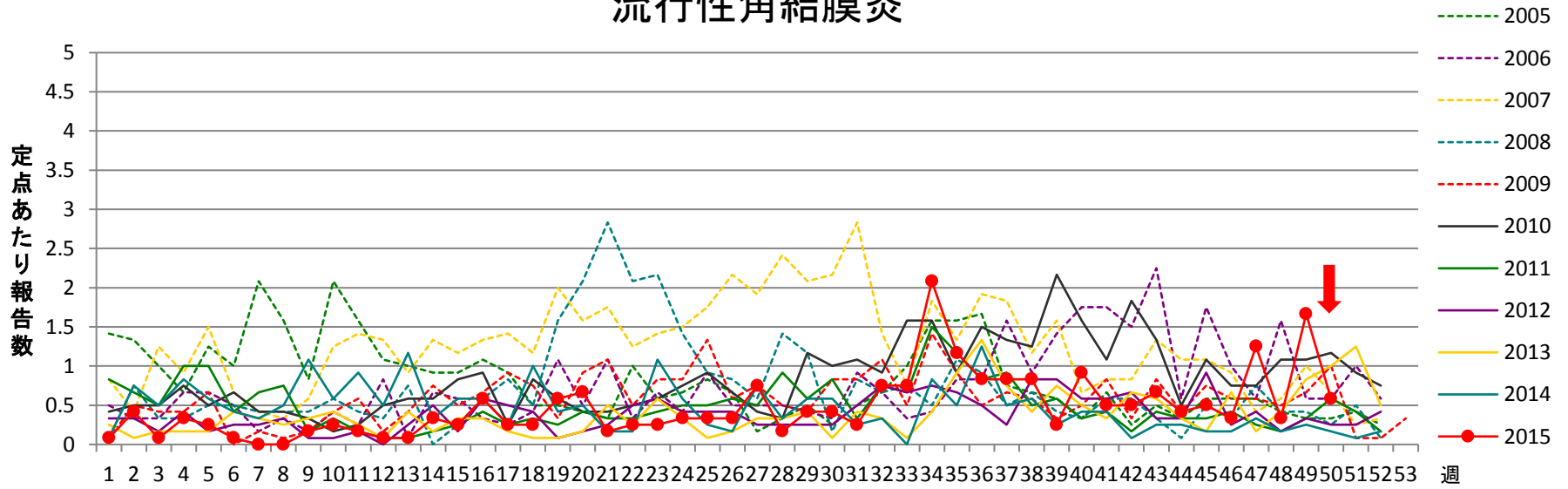
流行性耳下腺炎



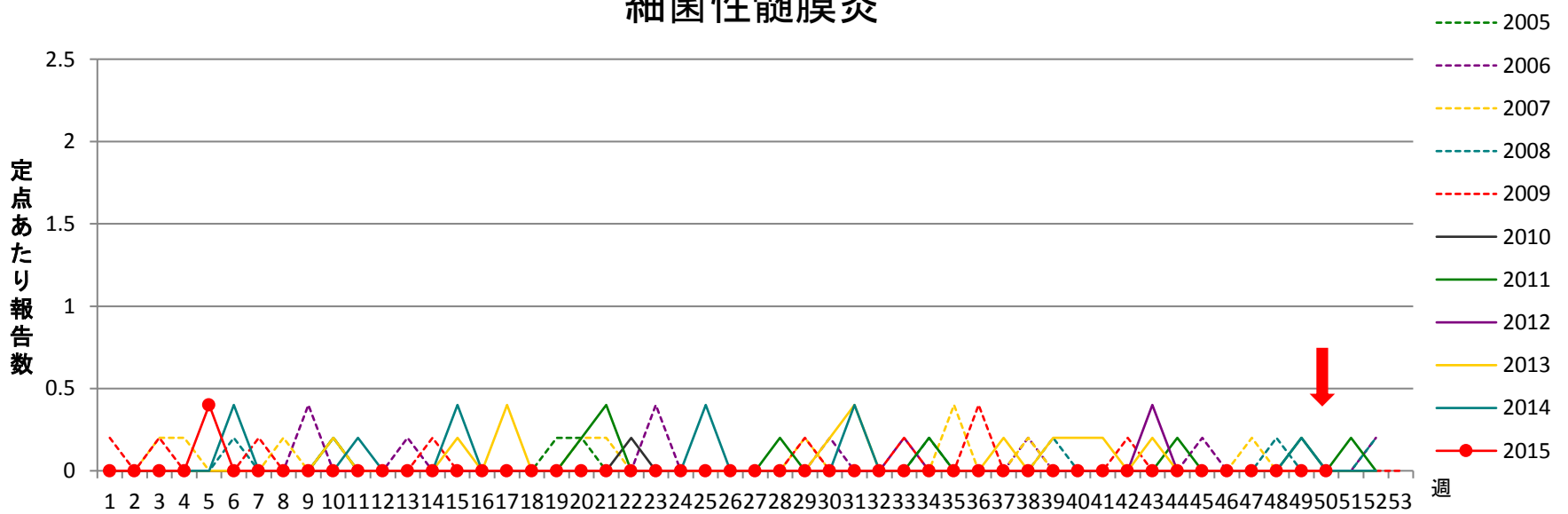
急性出血性結膜炎



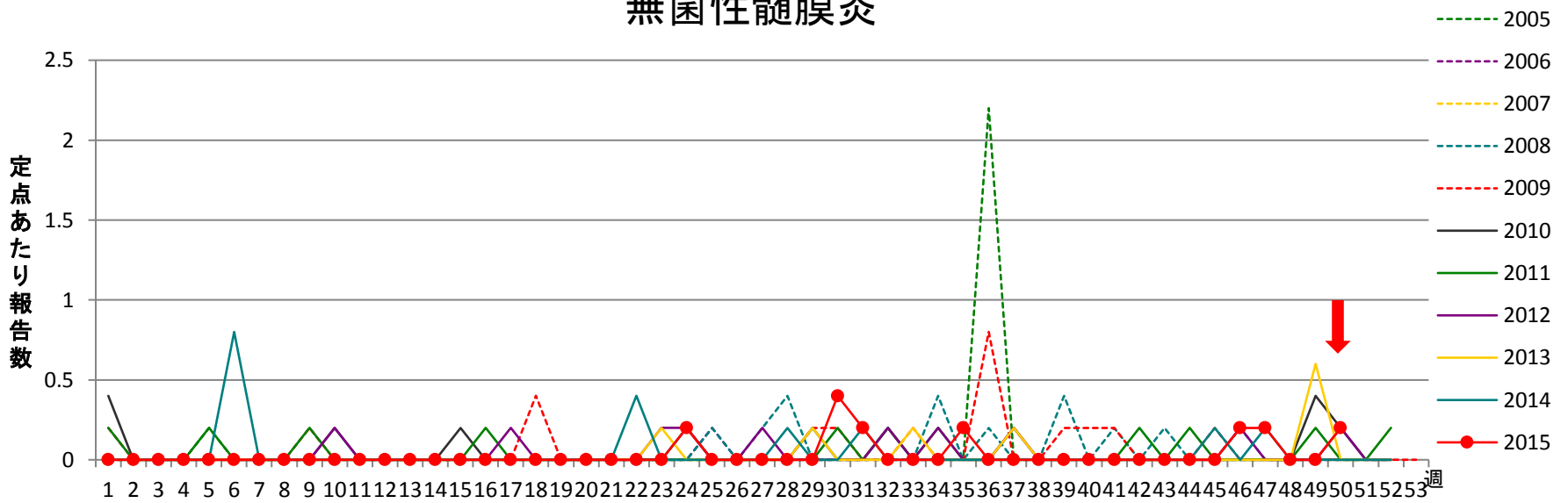
流行性角結膜炎



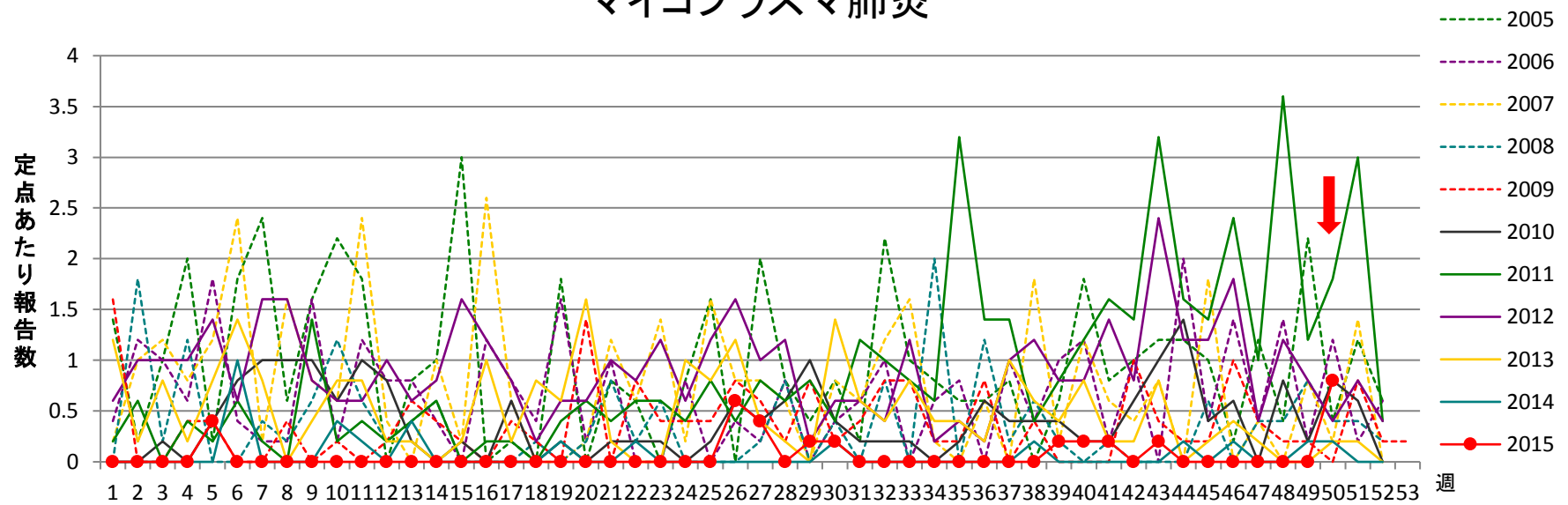
細菌性髄膜炎



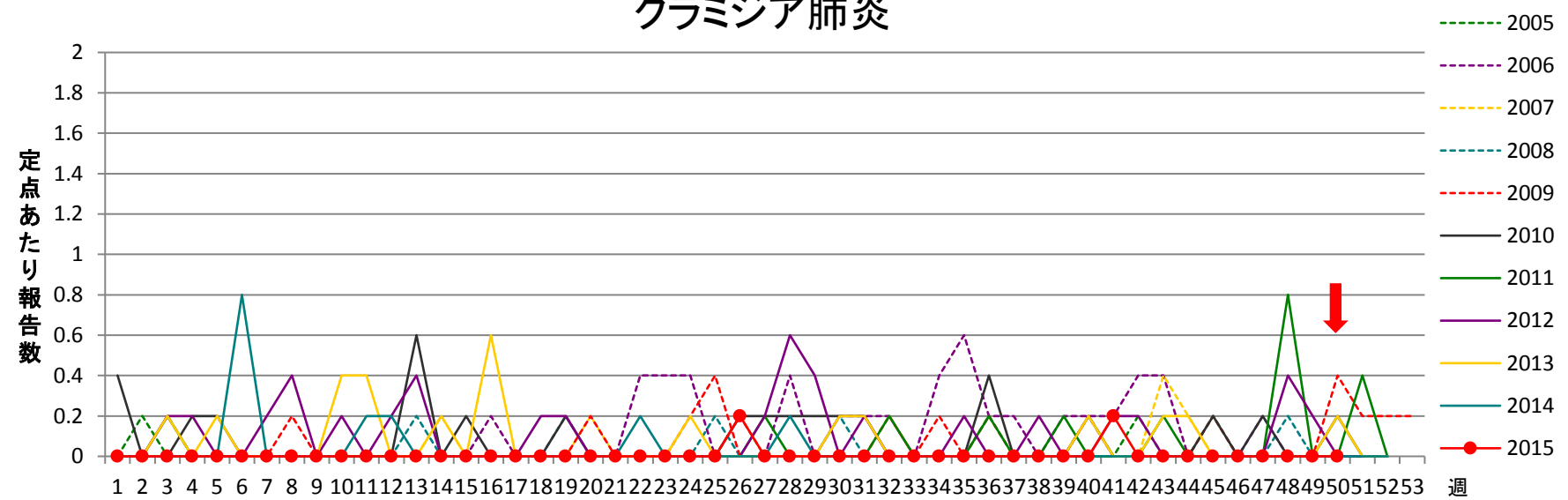
無菌性髄膜炎



マイコプラズマ肺炎



クラミジア肺炎



感染性胃腸炎(ロタウイルス)

